

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	第29回川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働室		
開催日時	平成29年11月30日(木) 午後6時から午後8時		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	岩崎会長、田中副会長、相川委員、山本委員、藏原委員、佐藤委員、中井委員、仲井委員、中島委員	
	その他	市民活動センター 三井センター長	
	事務局	参画協働室長、同室主幹、同室主事	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 川西市参画と協働のまちづくり推進に関する取組状況について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 川西市参画と協働のまちづくり推進計画 (H25~H29) の進捗状況について</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 川西市参画と協働のまちづくり推進計画について</p> <p style="margin-left: 20px;">(4) その他</p> <p>3 閉 会</p>		

18 : 00～

1 開会

2 (1) 川西市参画と協働のまちづくり推進に関する取組状況について

〈事務局より資料についての説明〉

○事務局

- ・今の説明について、ご意見やご質問はないか。

〈意見・質問なし〉

2 (2) 川西市参画と協働のまちづくり推進計画 (H25～H29) の進捗状況について

〈事務局より資料についての説明〉

○事務局

- ・今の説明について、ご意見やご質問はないか。

○委員

・4ページの「④市民公益活動情報の一元的な発信」のところで、平成28年度は取り組みができなかったとのことであるが、平成29年度は取り組んでおられるのか。一元的に情報発信できるツールというのが私の中でイメージが無くて、広報誌などで何かをやるという事業の発信もそうであるが、「こういうことをするので、ボランティアさん集まれ。」みたいな発信とかを今の仕組みだとなかなかできない。子育て支援の分野だと、子育て・家庭支援課にお願いをして、そのところが空いていれば、載るかもかもしれないという

形でやらしてもらっているが、この一元的に情報を発信できるツールの中に、広報誌のページが含まれているのかお聞きしたくて、もし市民の活動を一元的に発信できるページが広報の中に設けられれば、参画協働室になるのか、かわにし魅力推進室になるのかわからないが、直接お願いできる仕組みがあると、もう少し発信がしやすいということを感じていたので、お聞きしたい。

○事務局

・ここに記載している取り組みであるが、個別には市民活動情報誌とかボランティア情報誌のように情報発信をしているが、それらをまとめたり、見やすくしたりしたような一元的な情報発信は取り組めていないのが実情である。先ほどお話いただいた、広報誌にそのような誌面を設けて発信するといったことが、できたほうが良いとは思っているが、広報誌の誌面の制約といった課題があるので、調整ができればしたいとは思っているが、現状では取り組みが進んでいない状況である。

2（3）川西市参画と協働のまちづくり推進計画について

〈事務局より資料についての説明〉

○会長

・拝見していて、ちょっとわかりにくかったのが、30ページに、基本方針に基づいて基本施策がずっと並んでいて、32ページから評価指標と詳細な取組項目が出てくる。これは、もう少し整理ができないのか。

○事務局

・30ページには、取組項目の一覧表みたいなものがあつたほうがわかりやすいと思って作成したが、ボリュームが出すぎて、逆にわかりにくくなっているかと思うので、ここは

工夫を加えたいと思う。確かに基本方針1を2回記載しているようなイメージになっているので、書き方を検討したい。

○委員

・基本方針2の施策の方向としての「(1) 財政的支援」の方向性がわからない。個人的には薄くなる感じがして、素案を見ると、その代わりに新たに人的支援が出てきているので、こういう形で後方支援する方向になって進んでいくと理解したらいいのかお聞きしたい。具体的に「(2) 人的支援」が、地域担当職員・地域づくりアドバイザーという具体的なイメージがあつての取り組み項目かと思うが、その理解でいいのか確認させていただきたい。

○事務局

・人的支援のところであるが、地域担当職員・地域づくりアドバイザーが、後方支援をする形で、現在も地域に入って、アドバイスなどをしながら活動の支援を進めているが、これまでと同じようなスタンスで、次の計画の5年間でも進めていきたいと思っている。最終的な地域のゴールというのは、地域自身でなんでもやっていけるような状態であることだと思うので、あくまでも後方支援という形で進めていきたい。

○委員

・今現在もそういうシーンがあつて、十分に5年間の間にできてきて、同じような感じであつて成果が出るということで理解していいのか。財政的支援を引くのであれば、もう少し人的支援の方に力を入れると思っていた。同じような力の入れ方でいくということではないのか。

○事務局

・現在も地域担当職員が地域に入っていて、その地域を引っ張っていくというイメージで

はなく、何かお困りごととか、相談があった場合にアドバイスをしながら、裏方に徹するようなイメージになる。

・現在も効果が出ていると思っているので、地域によっても、地域活動に対する温度差というか、傾向も違うといった課題もあるので、急に人を増やすというのは難しいが、地域に合わせた後方支援をしていきたい。

○会長

・第1期計画の振り返りの中で、地域分権の深化と相乗効果によりというのが、今回入っている訳だから、この地域分権の深化というのがどの程度で、それが、なかなか行き渡っていないところについては、どうするとか。そういう話は、これからかなり地域性が出てくる可能性がある。財政的に、まだまだだというところを支援していくのは、かなりしんどい話になるが、人的な支援の部分で、かなり地域で濃淡があるというのは、ありうる話であると思う。

・そういう形での、後方支援というのが、コミュニティビジネスの促進につなげていく大きな目標のもとで、地域によっては厚くやっていかななくてはならないというのもあるだろうし、地域の実情に応じて、適切に人的な後方支援というのは、やっていけるような機動性は絶対必要なかと思う。

○委員

・27ページで、自治会のことについて全然触れられていないが、自治会にどういう役割を担わせるのか。30ページになると、担い手の発掘のなかに、「⑨自治会への加入促進、役員の役割の効率化の事例の紹介」とかしかなくて。それでは、どういうことを期待しているのか、わかりにくいのではないか。今、自治会は加入率がどんどん減っていると思うので、どこかでてこ入れしなければならないのではないか。

・30ページの人的支援のなかには、「④地域担当職員、地域づくりアドバイザーによる後方支援」などがある。自治会は何もないのか。

○事務局

・具体的に自治会と記載している訳ではないが、ここに書いている担い手不足、役員の負担感は自治会にもあたることだと思っている。自治会以外にも他の市民公益団体もあるので、はっきりと自治会と記載するのではなくて、全体的に言えることを記載している。

○会長

・自治会という言葉があった方がいいという考えか。

○委員

・そうである。

○会長

・現状の問題点の中にはあってもいいかもしれない。自治会加入率は、顕著に減ってきている。

○委員

・第1期計画の中で取り組みを進めていくにあたっては、検証と評価をしていくと明記されているが、それらがなされているのか根本的なところで疑問がある。第2期でも、第1期と同じような施策で、文言としては漠然と支援といったようなことが書いてあって、実効性、現実性といったところで、どう具体的に自治会加入率が減っているのを増やすのかというものが、施策として答申の中に入れる必要があるのではないか。

○会長

・確かに、施策の方向、取組項目まではあるけれども、第1期計画を振り返ったときに、第2期の計画の中で、この取組項目の内容というのはわかるが、もう少し具体的に書いて

いく必要が、計画である限りあるのではないかということになる。このところは、今年の推進計画が始まった時からずっと議論になっているところだが、ここは最終的にはどのように考えたらいいか。

○事務局

・まず、検証というところだが、17ページからの、「第1期計画の取り組み」というところで、一定の説明はできていると考えている。取組項目の書き方であるが、確かにご指摘のとおり、支援とはどういった支援なのかといった話もあるかと思う。

・現在と全く同じ取り組みだけというのであれば、問題があるかと思うが、やり方を変える等の検討もしていきたいと思う。

○会長

・確かに方向を変えるというのはあると思うが、タイトルで修正いただいたように、次のステップを目指すというのはわかるが、それが、取組項目のところ、きちんと第1期の計画を反映しているものになっているかどうかというのが、もう一つよく見えてこないというご意見だと思う。そこはどうだろうか。これはあくまでも計画策定に関わる答申なので、これをベースに市の方で、今ここの議事録も当然、答申の際にお渡しする訳だから、そういう中で、改めて市の方で答申をベースにして詳細版というのを改めて検討する形になっていくのか。

○事務局

・その方向で考えたいと思う。

○委員

・今言われたことはすごくよくわかるので、検証と評価というと、毎年検証していると言っているので、毎年検証していたとすると、成果目標があって、20回前提のところを3

回しかやっていないというのは、1年目、2年目、3年目の時に1年目も2年目も目標に達していなかった、3年目には100%もしくはそれに近づけるような、達成しようというような文言、例えば「100%を目指す」と書いてしまったら、当然やらなければならないので、少しはやる方向になるのかと。

・検証されているという中では、実行の確認というか、途中での検証がなかなかされていないのが、今日見る第2期の計画の(1)(2)(3)のところで、書かれている内容でいくと、実効性が、不十分であったのかと思う。「100%目標を達成する。」といった検証するための別のプロジェクトチーム、第3者チームというようなものを場合によっては設置するとか、完遂しようという方向性を示す必要があるのではないか。一市民としては、そういったことを期待したい。

○会長

・川西市の庁内体制として、第1期推進計画と第2期推進計画の進捗管理をちゃんとやっていく体制を構築しておかないとよくないという意見だと思う。庁内の協働推進本部会議は開催されるので、その会議の一つの役割ではないか。ここはしっかり協働推進本部会議で、きっちりと推進計画の進捗管理と数値目標の達成に向けての実行計画みたいなものは、なお検討してもらわなければならない。このことをここの意見としておきたいと思う。

・他はいかがか。

○委員

・基本方針を3つに組み立てたということであるが、3番目がすごくバランスが悪い。1番で既にきっかけづくりまで書いているのに、3番に未だに意識啓発の仕組みづくりで、施策指標が全部職員の割合になっている。方向性として、市民と職員の意識啓発ということであれば、ここは少し変える必要がある。ようは、少子高齢化を見据え、27ページに書いてあるように、今までのような名望的なリーダーではうまくいかないの、活動内容や活動スタイルを見直すと、つまり、役員さんに任せておくことだけではなく、一人暮ら

しの人も独身の人に関わるみたいなことを市民もちゃんと意識しておかなくてはいけないということが、たぶん2期の私たちがこれまで話してきたことで、それが入っていない。

・意識啓発というのだったら、そこをきちっと書かないといけない。ちょっとこの書きぶりというのは、1と2が練られている割には、3はバランスが悪い。

○会長

・職員中心になっている。

○委員

・「意識啓発の仕組みづくり」の中に、市民が、ちゃんと自分の地域のカルテを見たり、今までの役員さんに任せきりではいけなくて、生まれ変わるという話をしていかないといけないので、その意識啓発ときっかけづくりのところをもう一回整理をして、3本柱でいくのであれば、見劣りがしないようにしないといけない。

○会長

・課題から出てくる活動内容や活動スタイルの見直しというのは、これは何も、市職員だけの話ではない。むしろ、地域住民の意識啓発の方が大きい訳だから、それをどういう風に進めて行くのかというところは、取組項目として、内容を豊富化していく必要があるのではないか。何しろ取組項目は、限定されるのであれば、基本施策の中の部分で、市民の意識啓発というものを少し詳しく書いておく必要があるのではないか。

・先ほどまでの議論でいうと、最後の38ページのところも協働推進本部会議の開催が、この計画の詳細な実行計画と進捗管理もするぐらいの話も別項目として出しておいてもいいのかもしれない。ちょっとここについては、自分側の意識啓発の話というのはなかなか難しいのかと思うが、ただ、実際はそれをメインに据えていかざるを得ないと思う。

○委員

・先日、ある地域のラウンドテーブルに出席したが、地域内で参加している方が少なかった。その地域の参加者以外は、取り組みに興味のある他の地域の方たちということで、市民の意識の向上には何らかの方策を取らないとせっかくラウンドテーブルをやっても、ここに来る人たちの興味がすごく薄いのではないかというのが、初めて参加した時の印象である。今後、2回目、3回目とやって期待される効果が出るのかという疑問が1点あった。また、もう一つは声かけ、情報発信の段階で、どれだけ効率的に発信されたのだろうか。地域の方たちに聞くと、ラウンドテーブルのチラシがポスティングされたチラシを持っていた方もいたが、意識が薄いと感じたので、意識改革と情報発信の部分は何らかの方策を取っていかないと推進計画の非常にいい部分が伝わっていかないという気がする。

○委員

・私が参加した地域は、30人くらい参加したが、新人は2人ということで、周りはよく知っている人同士ばかりであった。私個人は、知り合いが増えて良かったが、これが継続して自治会活動に参加するかどうかという話になった時に、来ている人はいろいろな役を担っており、手一杯でもう嫌だという声を聞いた。このラウンドテーブルも、頼まれたから参加していると言っている人もいた。

○会長

・そこを広げないといけない。

○委員

・今後、広がったときに、その後どう繋げていくかが、なかなか難しいと思う。

○委員

・今回、感じたのは、13ページにあるコミュニティ組織が、これまでどういう立場なのかよくわからなかったのだが、答えとして、ネットワーク組織として明記されていたので、

よくわかった。今までは、コミュニティと自治会、それ以外の管理組合などが、全部横並びになっていた。自治会とコミュニティがそれぞれ連絡をするが、相互の関係がない。今回書かれているようにネットワークだということで行くと、コミュニティ組織が中心となって、全体に情報発信をして、ネットワークを作りましょうという形だから、非常にいいと思う。これは、実効性の部分では、現実よりもラウンドテーブルを見たときにどうもネットワークにはなっていない。これをするにはどうすればいいのかというのが、この計画では重要ではないかと思う。

○会長

・ネットワークを具体化していくためのものが、取組項目には入っていないとまずいということであろうか。これは意識啓発に限らず、基本方針2の「地域分権の深化との相乗効果」の部分でも、なんらかの取組項目がいるのではないかということにもなるだろうし、これは、基本方針1の「潜在的な担い手の発掘」ということにもかかってくる。コミュニティ組織が、ネットワーク組織としてどうあるべきかという話かと思う。そのようなことに対して、行政がどのような支援ができるのかという観点から内容を豊富化していく必要があるのではないか。

○委員

・8ページの表の人数の割合について、縦軸が人口、世帯数が5万単位、右の縦軸の世帯人員が0.1ポイント単位で表記をすると、同時表記をした場合に、あまり人口は減っていないのに、世帯人員がものすごく減った印象を受けるので、別に表記する方法を検討してもいいのではないか。

・26ページの人口減少・少子高齢化の進展と世帯の変化の説明文について、これまでは、「確実に」と言えるほど減少しているとは言えないのではないか。将来的には言えるのかもしれないが、気になっている。

○会長

・世帯が変化していることは確かだが、現状では、確実に人口減少とまでは言えないのではないかということか。いずれ減ってくるのは確かだが。

○委員

・9ページにもあるとおり、市内の地域によっては、人口が増えている地域もある中で、「確実に人口減少」という文章だと、指摘をされる方もおられるのでは。

○委員

・7ページの表の2015年の人口と8ページの表の2015年の人口が違うのではないか。7ページの表を見れば、人口減少もわかりやすいのではないか。

○会長

・事務局、この7ページの表と8ページの表が違うことについてはいかがか。ここは、確認しておいていただきたい。

・私の認識としては、川西の場合は減り始めたら早いというのはイメージとして持っている。戸建て住宅のある意味宿命であるので。

○委員

・11ページで、自治会について書かれている中で、活動のスリム化や業務の細分化の必要性があるのかと思う。自治会の加入率が低下していることと、役員不足、それがなぜかという、仕事以上に大変だということがあって、どこの自治会もそうなのかなど。果たして、今コミュニティがあって、一緒にやっていく中で、役員の方も同じという中で、自治会活動は本当に多いのだろうか。実際にいろいろな3役をやってきた中では、それほど負担ではないというのが実感である。活動をスリム化して、業務を細分化して、本当に効果が出るのか。

○会長

・自治会の会員さんの課題というのが、任期1年で終わってしまうというのがあるのではないかと思う。結局1年で交代されてしまうと、前任から引き継いだ仕事をこなしたら終わりである。そうすると、結局5年後、10年後に大きな課題を抱えるというときに、班長さんのいろいろな活動も毎年毎年のこをやって終わりというのは、とても残念だという問題意識だと思う。だから他のコミュニティと一緒に様々な活動をしていくというときに、次の計画では、そういった自治会活動を継続していくためには、活動を精選するというか、「これは自治会がちゃんとやらないといけない活動」ということをいくつか絞って、後は、コミュニティのラウンドテーブルの中で、他の団体にやらしてもらえそうなものはやらしてもらってもいいのではないかという意味でのスリム化であるとか。そのためには、他でもよく言っているのだけれども、町内会、自治会の1年の活動をずっとみていくと、そして、地域で他の様々な団体がやっている年間の活動を横並びにしてみると、案外同じような活動とか、似たような時期に、似たような活動をやっていたりというのがある。そうすると、それを一緒にその時期にやっていくという形でのスリム化であり、例えば、同じ仕事は、自治会、町内会は手を引いて、他の団体にやらしてもらおうとか、そういうことをやることによって、業務の細分化といえるかどうかは別として、本来自治会がやらなければいけない活動をちゃんとやらしてもらうために、業務を精選するというのではないか。それが、ここに書かれている意味だろうと思っている。

○委員

・業務を明確にして、細分化して、少しみんながやりやすい形に持っていくことだと思っているが。どうして、自治会のこの部分の話を出したかというところコミュニティはネットワーク組織というところを見ると、コミュニティと上下関係がないというところ自治会と取り組む状態を見直す必要があるのかと思う。自治会として見直すということよりも、自治会とコミュニティというのは、一元化せずに2つ出てしまうために、なんとなくわかり

にくいという状態になっている。自治会だけがどういうスリム化かわからないが、行うのではなく、全体としてありようをわかりやすくというか。改善に向けて、この部分は議論の必要があると思う。

○会長

・基本的には、コミュニティの中で、自治会という団体が活動していく形になっていくと思うけれど、その時に自治会の本来の活動は何なのかということ、もう一度コミュニティの中で議論しないといけないのではないか。

○委員

・住民の意識というところでは、コミュニティの方、自治会の方それぞれ違った考え方を持っているので、ラウンドテーブルでその意見交換なりが非常に役に立つのかと思う。今現状でいくと、自治会未加入のコミュニティの方が参加されていて、その方は自治会に入っていないから実態はわからないはずであるが、誰かから聞いてそのような話をしておられるのであれば、まずいな。今後の在り方としては、コミュニティ、自治会のきちんとした情報が、正しく伝わる必要があるのではないか。この計画の重要な部分というのは、情報共有である訳だから、正しい情報の共有というのが必要になるかと。それをどうするかというのは、計画の中にあれば、最高かと思う。

○委員

・自治会といっても、地域によってもものすごく差があるなど。マンションが多い地域では、煩わしい人間関係は必要ないということで、マンションに居住している方もおられ、自治会に入りたくないという人が多く、自治会長も困っておられる。

○会長

・自治会加入率が25パーセントの地域と、80パーセント以上組織されている自治会

と、それを含むコミュニティの関係は違ってしかるべき。ただ、地域の差し迫った課題だとか、防災の関係とか、そういうものは自治会に入っていない人も一緒なので、そういうのをコミュニティできっちりと議論できるような場でないといけないというのが基本であると思う。

○委員

- ・自治会活動を「継続するため」より「続けやすいように」の方がいいのではないか。
- ・まちづくりラウンドテーブルはふわっとした場なので、そろそろ第2期では話し合える場。29ページのところでいうと、相互の交流会の開催だけであるが、前におっしゃったのは、全市一律ではないけれど、地域ごとにカルテなどを見ながら、「自治会は力があるから、できないところはコミュニティがやってほしい」「自治会はしんどいので、ほぼコミュニティにお願いします」といった地域ごとに本音で話し合える場がないと意味がないという発言をこの前もいただいた。

○委員

- ・今回申し上げたように、市民は地域での活動に対する意識が低いという感じを受けた。根本はそこで、最初はラウンドテーブルの内容がどうこうよりも、コミュニティの人が案内をポスティングされた時に、これに出ようという意識がいかに低いかということである。まず、出ようとしない。出たときには、何度かの話し合いで、そこで問題点が浮上し、それを具現化するときはどうするかといった次の段階にいけるようなシステムがあってもいいのかなと思う。

○委員

- ・第1期計画の時には、さっきの発言ともつながるが、基本方針3の「意識啓発の仕組みづくり」とふわっとしたラウンドテーブルで良かった。しかし、第2期になってくると、地域分権の仕組みも入ったことだし、少し具体的に話し合う場が必要というのは、前の会

議でも出たところである。

○委員

・後、回数である。今回3回のラウンドテーブルが設定されていたが、1回目が2、3名しか住民の方がいなかった。2回目以降は果たして盛り上がるのかという不安があって、盛り上がらないと計画としてはいけないので、たくさんの情報をもって参加できるような場所づくりをこちらから何らかの後押しをしていく必要がある。

○委員

・そのようなコミュニティと自治会の役割分担を決める場みたいなものは、施策に書き込めないので、検討を始めるくらいのこと書いてあれば、なんとかやっていけるのではないかな。全市一律でやると失敗する。

○副会長

・いろいろな地域で話し合いの場を分析しているところであるが、3つくらいタイプがあって、お互いの価値観が違うことを共有して、気づきを促すだけで帰っていく対話型、どんどんアイデアを出していく企画提案型、この地域で〇〇をしようということを目指す企画実現型があり、3つのタイプは全然方向性が違う。10団体くらいしか調べてないが、全然違う話し合いの場なので、この時にこれを使いますといった、地域には多様な話し合いの場があって、どこに参加してもいいという間口は広げていいと思う。具体的にそこまで書けるのかどうかであるが、一言でまちづくりラウンドテーブルと言ってしまうのはどうなのか。

○委員

・ラウンドテーブルが決めない場というのは、前回確認した。

○会長

- ・ここでいうまちづくりラウンドテーブルは対話型になるのか。

○副会長

- ・そうである。

○会長

- ・企画提案型、企画実現型というのが、強いて言えばコミュニティビジネスの促進に繋がるような話になっているのか。

○副会長

- ・そうである。
- ・地域の中には、「何かをやってやる」という若い人もいる。その感覚を支えるような場づくりというか、そういうものが企画実践型であり、30代から50代の様々な若い人たちが中心である。対話型になってくると、50代が中心で、世代によって参加する人のタイプは全然違う。いわゆる話し合いの場っていうのは、30代から60代が中心で、70代の方は地域活動をすごくやられているという具体的な人物像が分析で出てきている。参加しようと思う人が参加できるような場を地域で作っていくというか、それを今一生懸命やってらっしゃっているけれども、ゆくゆくは地域の人が立ち上げていくことが理想かなと、地域分権とか地域自治という話なので、やっぱりそれをサポートしながら、基本は地域住民の方がそれを開ける場を作っていけるように、ある程度整備をしていくというか、そういう過程であるということを理解しないとイケないと思う。

○委員

- ・情報伝達とか意識改革という部分では、まずラウンドテーブルに集まっていたかいないとイケない。集まった人たちが何かを立ち上げていくのか、そこに参加した自治会やコミ

ユニティの人たちが考えてくれたらいいし、市役所は後押しができたらいい。そこにいくためには、情報伝達や発信をどうするのかというのがひとつ。今回、ポスティングなどもやっているが、それでも集まらないというのは意識が非常に薄い。そこを直していかないと、担い手の発掘以前の問題である。そのためにラウンドテーブルが計画に組み込まれている訳だから、これをどうやって情報発信・収集をやっていくか。

○委員

・基本方針3の対案を出す。今は意識啓発の仕組みだけなので、ここに多様な話し合いの場みたいなものをひっつける。「市民公益活動や参画と協働に対する意識啓発を進め、多様な話し合いの場の構築に努めます。」そして少し、先ほどの会議の話とかいうのをここに入れる。情報共有は、基本方針1に入っている。まだ、施策としてラウンドテーブル以外のものは書けないと思うので、多様な話し合いの場の構築に努めますくらいにしておいて、いくつか指標でなくても取組項目のところで、この推進会議でそういう場をこれから検討するとかくらいしか書けないのではないかな。

○委員

・計画の目標として、実際にラウンドテーブルを何回やりましょうという話より前に、検証されているのかという話に戻っていくので、そこも達成率を上げていくとか、そういう必要があるかと思う。

○副会長

・文章の表記の仕方であるが、どういう人たちを対象に書いているのかということ意識しないと書きぶりが違ってくると思う。例えば、市民活動でもやり始めた人を対象にするのか、やっている人なのか、これから始めようという人なのか、意識しないと書く内容が異なってくる。

・プロセスを明確にするというところであるが、先ほどおっしゃたように、課題の抽出の

仕方を明確にするとか、例えば活動の中で先ほどおっしゃってたネットワーク組織をどう作っていくのかというプロセスもマニュアル化するとか、すごく積極的な施策を打つ方法もあるのではないかと。具体的な項目は並んでいるが、プロセスをどう表現するのかというのがないのが少し物足りなさを感じる。

・第3章と第4章の対応関係がないという話が出ていたと思うが、例えば3章の中でも、具体的に評価をしているという話で、カルテが活用されていないとかが書かれているが、じゃあ、カルテは積極的にどのような活用の仕方をするのかというのを第2期のところで書くとか。情報を統合化するというところでも、統合化するのであれば、どのような統合の仕方があるのか、そういうことを書き込む必要があるのではないかと。このようなところでわかりやすくなると感じた。

○会長

・今、ご指摘を受けたような部分、我々はこの市の推進計画の策定にかかる答申を出していく。これを受ける形で、市の方で推進計画のある意味今回は基本計画であって、実施計画で詰めた作業をしていただく必要があるだろう。そこの段階で誰を対象にして、どういうふうな形で細目にしてもネットワーク組織をどう作るかというプロセスの話、情報の一元化で具体的にどういう手段を今後取っていく必要があるのかというような、まさに3章と4章のつなぎの話、4章の項目を具体化していくという話、その部分については、この会議の議事録も含めて、答申をさせていただく中で、市のほうに一旦お預けをしようというような形はどうかと思っている。情報の共有のところ、最後のページに出ているが、庁内の協働推進本部会議がある訳だから、この協働推進本部会議のところ、その議論というのは、きちりとやってもらわないといけない。今後の協働推進本部会議は、特出しをして、そこの役割を書き込む必要があるのではないかと。そのような形でここは一旦、今日いろいろとご意見をいただいたが、それを含めて、答申として市の方にお預けをして、そしてその実施計画みたいなものの進行管理をまたここでやっていくような形でいきたいと思うが、よろしいか。

〈異議なし〉

3 事務連絡

〈事務局から今後の連絡〉

4 閉会